

平成27年3月1日

先進地域から学ぶ
在宅医療推進と地域包括ケアの取組み

～因島医師会の
在宅医療・介護への取組みについて～



因島医師会

主講演者 社会福祉士 豊永 智和

副講演者 事務部長 楠見 由活

副講演者 尾道市福祉保健部 高齢者福祉課
課長 安藤 誠子

因島



因島医師会について



因島医師会
A会員 16名
B会員 18名

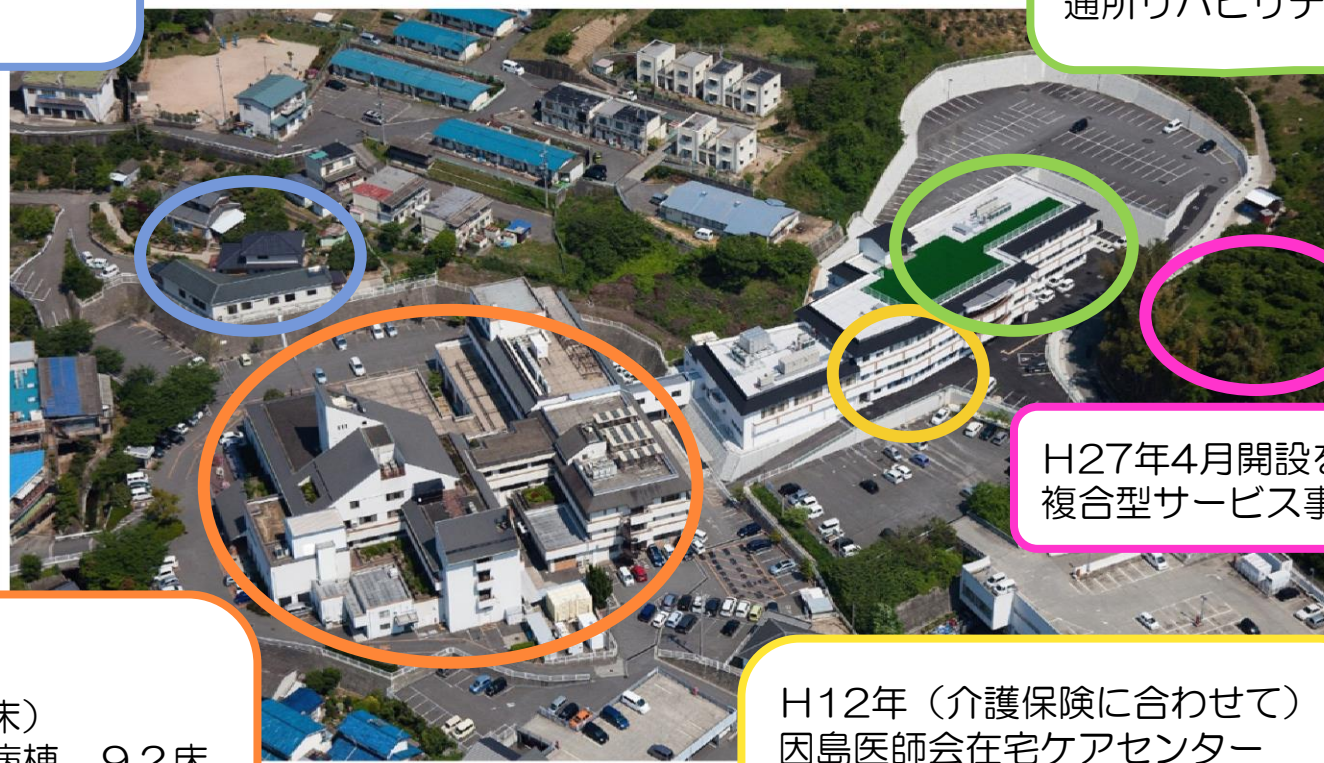
人口 2万5千人
高齢化率 38.4%



空から見た因島医師会の全貌

H19年開設
小規模多機能型居宅支援事業所
(H18地域密着サービスのスタートと
同時に計画)

H24年開設
介護老人保健施設ビロードの丘
定員 80人
通所リハビリテーション 45人



H27年4月開設を予定
複合型サービス事業所 (建設中)

S57年開設
因島医師会病院 (4病棟 197床)
一般病棟 2病棟 92床
(地域包括ケア病床含 44床)
回復期リハ病棟 1病棟 53床
障害者施設等一般病棟 1病棟 54床
通所リハビリテーション 40人

H12年 (介護保険に合わせて)
因島医師会在宅ケアセンター
ケアマネステーション
訪問看護ステーション
ヘルパーステーション
地域包括支援センター



因島医師会が目指した病診連携下での地域包括ケア

- 当院は医師会立の開放型病院である。
- 以前より地域の医療機関と密接な連携の中で診療を行ってきた。
- 開業医である、かかりつけ医が外来から入院、退院後外来と一人の患者様を一貫して診ることのできるシステムを構築している。
- 入院中もかかりつけ医が当院勤務医と共同診療を行うことで患者様に安心感を持って頂けるとともに在宅復帰へのアプローチにも繋がっている。
- 診療所の看護師等が介護支援専門員の資格を取得しケアマネジメント業務も行うため、普段の診療から医療・介護の連携が図れる支援体制を目指している。
- その他の事業所ともカンファレンスを行うことにより医療・介護の連携が図られている。



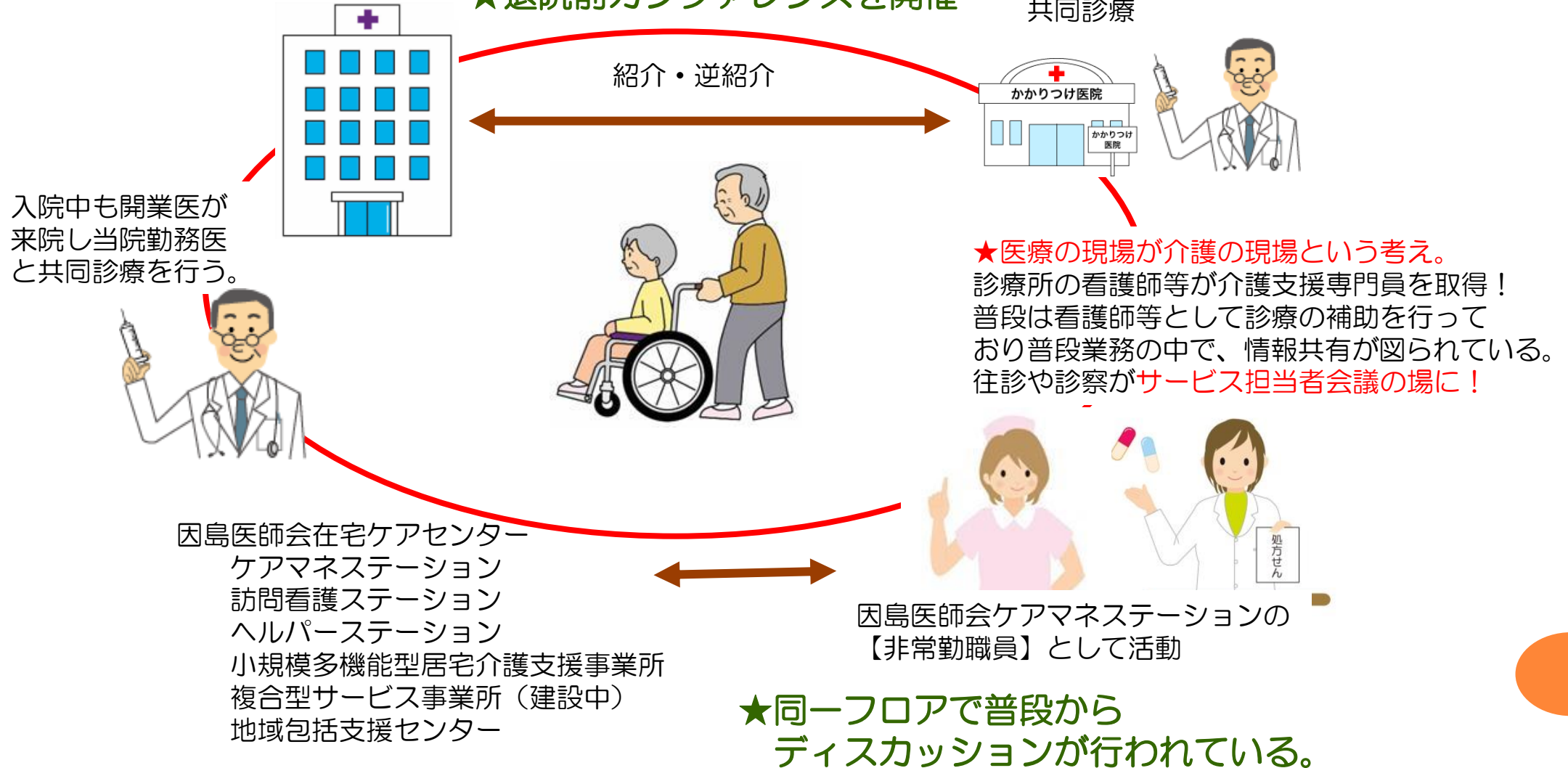
病診連携による支援体制

因島医師会病院【開放型病院】

- 一般病棟（地域包括ケア病床含）
- 回復期リハビリテーション病棟
- 障害者等一般病棟

★退院前カンファレンスを開催

開業医（主治医機能）
共同診療



因島地域で目指す地域包括ケアシステム

- 個人の自立とQOLの追求が可能となるよう、
医療や介護を通じた個々人の心身状態にふさわしいサービスを切れ目無く提供
 - 医療の現場が、介護の現場という考え
 - 多職種協働によるケアカンファレンス手法に基づくアプローチ
- 独居、夫婦単独世帯の増加、認知症の増加に対応できるサービス、見守りシステムの機能強化
 - 認知症対応のスキルアップ
 - 関係団体、民生委員、地域住民などによる見守りネットワーク



在宅医療・介護連携の実践

- ①ケアカンファレンスの積極的な開催
- ②尾道市南部地域包括支援センター（因島医師会受託）
機能活用による連携
- ③認知症対応のスキルアップ
- ④因島医師会在宅ケアセンターの活用
- ⑤ケアネット因島による見守り体制



①ケアカンファレンスの積極的な開催

- 入院中の状況を把握する場
- 介護支援専門員及びサービス担当等と患者情報の共有
- 多職種協働（専門的意見）によるサービスの決定
- ケアプラン作成のための共通認識を得る場所
- 各段階（入院時、途中経過、退院時、在宅サービス提供時、更新時、利用者の変化）で開催することにより明確なゴール設定を行い早期に在宅復帰への支援を行う
- ケースによってはケアマネジャーと同行して退院前訪問指導を行う

※25年度のケアカンファレンス開催回数 **324** 件

※25年度の地域医療連携室への実相談件数 **509** 件



退院前カンファレンスの様子



②尾道市南部地域包括支援センター（因島医師会受託） 機能活用による連携

- 地域ケア会議の開催
- 居宅介護支援連絡会議の定期開催
- 主任ケアマネジャーによる困難事例の支援
- 各サービス事業所との連絡協議会
 - 介護支援専門員連絡協議会（尾道市と合同）
 - ヘルパー連絡協議会
 - 尾三因医師会立訪問看護ステーション連絡協議会
- 多職種連携会議
- 各種研修会・講演会の共催
- 地域住民への広報



③認知症対応のスキルアップ

- CDT・DBCの普及啓発＝認知症の早期発見・早期治療
地区の開業医及び病院内の看護・介護スタッフ、地域住民へ周知を行い、家庭でも簡易テストを行えるように普及啓発を行った。
- 認知症ケアの講演会を定期的に行い施設や病院、サービス事業所、家庭での認知症ケアのスキルアップにつながっている。



④ 因島医師会在宅ケアセンターの活用

- 医師会ケアマネステーションでは、診療所の看護師等が介護支援専門員の資格を取得し、非常勤職員として登録して居宅介護支援業務を行っている。
医療と介護との連携が普段の診療の中で行える。
- 在宅ケアセンターは因島医師会病院に併設している老健ビロードの丘の1階にあり、入院中から支援を開始し医療や介護を通じた個々人の心身状態にふさわしいサービスが切れ目無く提供できる。
- 同一フロアにケアマネステーション、訪問看護ステーション、ヘルパーステーション、地域包括支援センターがあり自然発生的にディスカッションが行える環境となっている。



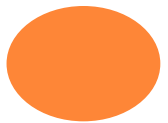
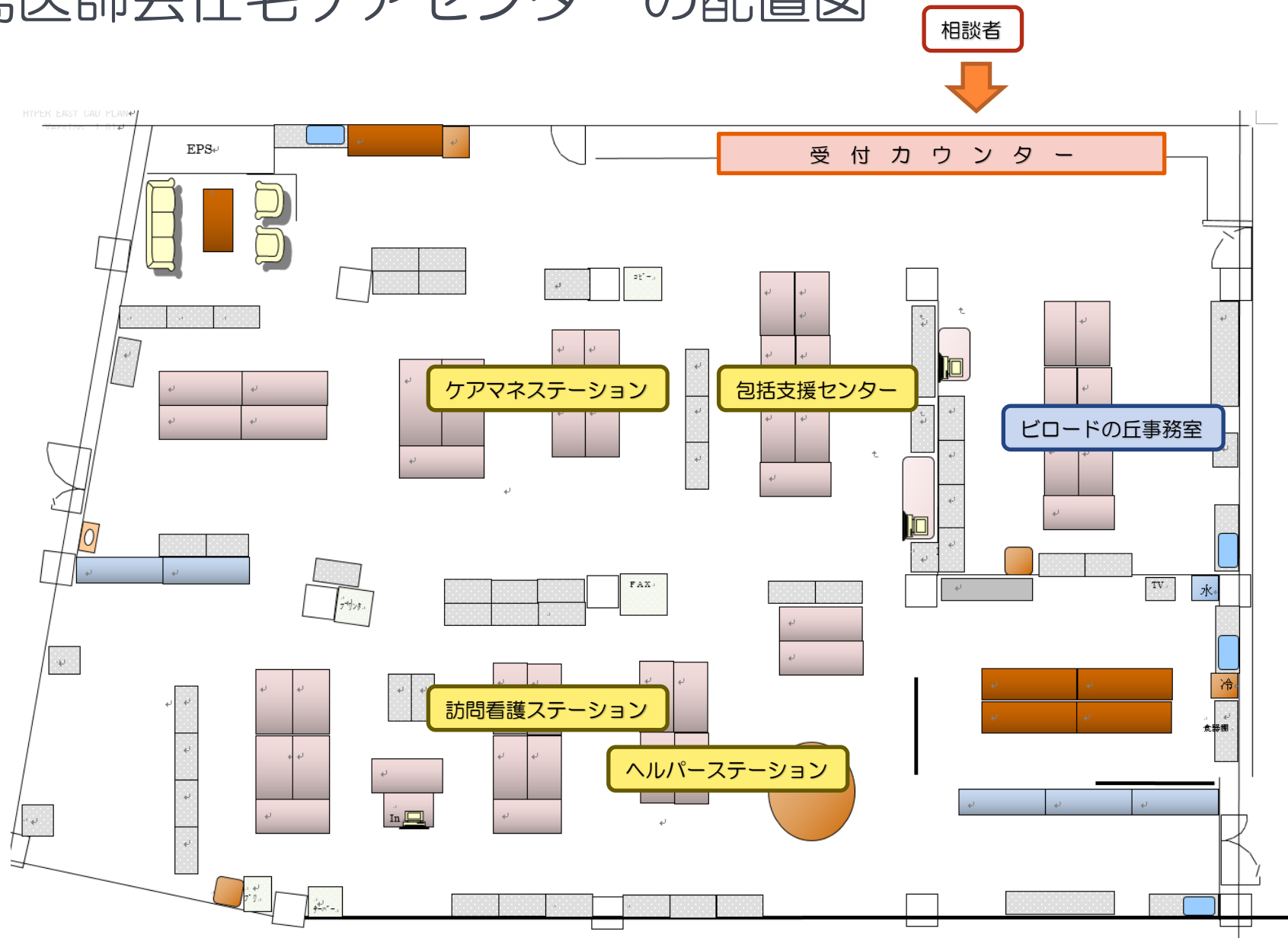
因島医師会在宅ケアセンターの様子



手前からビロードの丘事務室、地域包括支援センター、中ほどにケアマネステーション、奥側に訪問看護ステーションとヘルパーステーションがある。



因島医師会在宅ケアセンターの配置図



因島医師会ケアマネステーションの介護支援専門員

開業医の看護師等が介護支援専門員を取得、医師会ケアマネステーションで非常勤職員として活動している

- 診療所の看護師 7名
- 診療所の鍼灸師 1名
- 診療所、調剤薬局の薬剤師 3名
- 看護師 8名
- 管理栄養士 1名
- 歯科衛生士 1名
- 介護福祉士 5名

常勤・非常勤を含めた26名が多彩な基礎資格を持っており、ケアマネジャー間で普段から多職種の見解交換も盛んである。



⑤ケアネット因島の設立（平成20年8月～継続中）

因島総合支所長・福祉保健課長・因島医師会
連合民生委員・児童委員連絡協議会代表
社会福祉協議会因島支部・愛育連合会会長
因島老人クラブ連合会代表
因島警察署（平成21年より参加）
尾道市南部地域包括支援センター

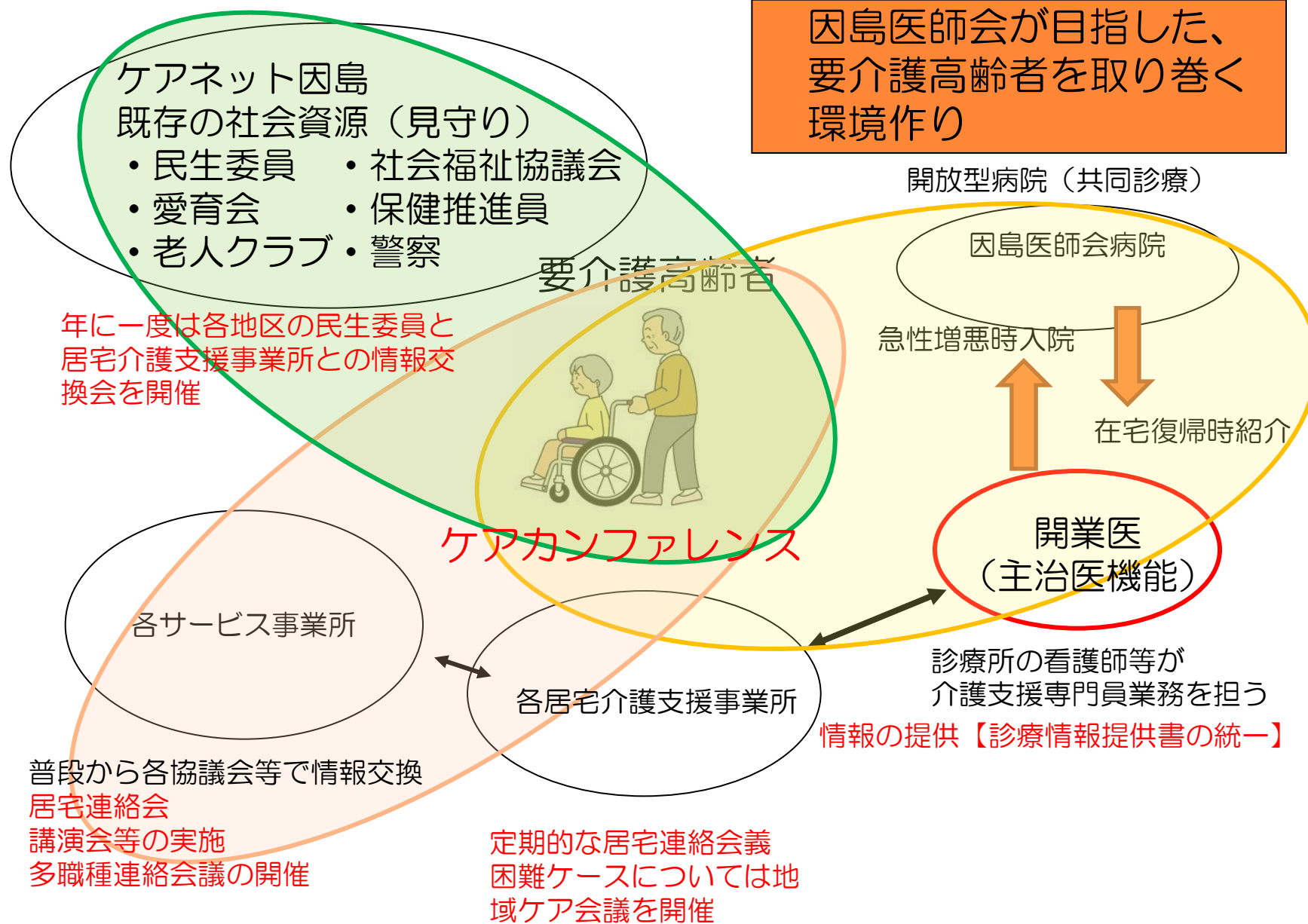
目的

地域の高齢者の安心と安全を守るために、お互いの組織の活動内容を知り、相互の組織の活動の補完と連携を図ることで、安心と安全を担保する。既存の支援体制を活用しての見守り体制の再構築を行う。



「因島地域における地域包括ケアシステムのイメージ」

因島医師会が目指した、
要介護高齢者を取り巻く
環境作り



現在の地域包括ケアを造るに至った思いと今後の展望

- ① 私たちの地域包括ケアの取組みは今から33年前の昭和57年因島医師会病院開設がターニングポイントであった。A会員10数名の小さな医師会ということもあり、自立した経営は絶対条件であった。また、地域からのニーズ及び国の施策ニーズをタイムリーに取り入れることが、経営的にも必須であった。
- ② 全医師会員が、医師会活動に利益を求めずに実行してきた。医師会役員が直接的に手間ひまの掛かる業務を行わず、事務局で実行できる組織を作ってきた。
- ③ 地域及び行政から信頼を得られる活動を継続。
- ④ 協力者を求めるよりも、自分達で地域包括ケアを造ってきた。
- ⑤ 今後は行政と一緒に、まちづくりという観点で地域包括ケアを醸成していく。



ご清聴ありがとうございました。

